

令和3年9月定例記者会見要旨

開催日時 令和3年9月17日（金）午前10時30分 302会議室

（市長あいさつ）

このところ思いがけないような災害が発生するなど、皆さまには色々ご協力をいただきありがとうございます。今月の定例記者会見はいつもより若干早目ですが、来月の予定や最近のトピックスについてお話してまいります。よろしくお願いいたします。

（9月の日程説明等）

○第73回諏訪市スポーツ祭 体育功労章・有功章表彰式

10月9日（土）午前8時00分 大会議室

○秋の全市一斉清掃

10月17日（日）午前7時00分 諏訪湖畔

○教育委員会関係10月行事予定表

記者との質疑応答

○新型コロナウイルス感染症について

（記者）県の感染警戒レベル5への引き上げへの対応について、先日の集中対策期間との違いは。

（市長）今回は家庭内感染であるということに着目しており、飲食由来という判断はしていないため、飲食店に対し時短等の協力要請をしていません。諏訪市、茅野市でのレベル引き上げについては福祉施設での感染が中心ということを見極め、家庭内での感染にも要注意というメッセージを出させていただきました。

（記者）市としての対応で違う点は。

（企画部長）前回の命と暮らしを救う集中対策期間では、県の要請に従い各施設を閉館としましたが、今回は原則開館といたします。開館する施設でも感染対策を強化し、一部時間の短縮や使えないエリアを設けるなどして原則開いていくということが大きな違いです。

（記者）その対応は昨日から適用しているということか。

（企画部長）今日から29日までの対応となります。

○新型コロナウイルスワクチン接種について

（記者）ワクチンの追加枠はどのくらいの規模になるのか。

（健康福祉部長）今回は、現状でわかる範囲で、10月2日、9日ともに200人の枠を用意いたしました。また、プレスリリースなどに県の設置会場のご案内も載せさせていただきましたが、希望する方でまだ接種できていない方がいらっしゃいました。

らこの機会に是非ご利用いただきたいと思います。

(記者) 若い方々への接種勧奨の施策があれば教えていただきたい。

(健康福祉部長) 受験生を中心に若い世代の枠などを作りながらご案内をしているところですが、まだまだ十分ではないのかなと思っています。接種の計画の見直しをしてみたいと思いますので、その際に分析を加えながら希望する人が早期に接種できるようなご案内も考えてまいります。

(記者) 現時点で、買物券を配るなどインセンティブの付与などの施策は考えているか。

(健康福祉部長) 希望される方が接種できるというかたちになっているので、特段そういったことは考えておりませんが、追加になった分のワクチン接種等については、報道の皆さまにもご協力いただきながらご案内しているところです。

(記者) 39歳以下の接種率は。

(健康福祉部長) 年代ごとに接種券を配布したことにより、39歳以下の方々については配布時期が遅かったということもあり、統計を取ると接種率は低いと思われませんが、現時点で数字は出していません。秋に向けての接種計画の中でそのあたりも分析しながら対応を考えていきたいと思っています。

(記者) 11月末までに希望者に接種を終えられる予定というのは変わっていないのか。

(健康福祉部長) 当初、諏訪市では11月末までにワクチン接種完了というスケジュールを組んできましたけれども、昨今の報道のとおり県が11月上旬という方向を示しています。ワクチンの供給にもよりますが、市としても1日も早く希望される方にワクチン接種が届くように体制を整えているところでございます。国、県が言う目標に向けて鋭意努力をしていくという状況です。

(市長) 諏訪市は、集団接種会場と個別接種で23の医療機関と諏訪赤十字病院の夕方の時刻の接種といった体制があり、1クール(2週間)で8,400ショット分の接種ができる体制は持っております。しかし、ワクチンの供給量が絞られておりますのでその体制を完璧に使えているわけではありません。ワクチンの供給を睨みながら調整をして進めているという状況です。

○大雨災害について

(記者) 諏訪地域では、土石流災害がこの一ヶ月で相次いで発生しているが、改めて見直した点や強化した点は。

(市長) 諏訪市においては、特に水害について内水の課題はこれから重視していかなければならないと承知しております。建設部におきましては、排水ポンプと発電機をセットにしたものを3基追加して今後の出水期に対応してまいります。また、この間の雨で傷んでしまった場所についても、十分に注意を払いながら被害が拡大しないように対応していきたいと思っております。

(記者) 土砂災害について見直した点、新たに取り組んでいる点はあるか。

(市長) 市では今年度中に、ハザードマップの改定作業を進めています。自分の命は自分で守るということと、災害の種類によってどんな避難行動をすべきかということ自身で考え、タイムスケジュール形式で記入できるシートを10月1日発行の広報すわの中に加えるといった取り組みを行っています。庁内においては警戒対策本部、災害対策本部等々の立ち上げに関する部分の見直しを行いました。

(企画部長) 土砂災害に対しては、雨がかなり降っていますので、現地をしっかりと確認するため、経済部中心に特に山関係になります。現地に入り見ている状況です。今後の雨も心配ですので、特に土砂災害警戒区域にある地域の区長等と連携しながら、何かあった時には至急連絡を取って避難体制を取っていただくなど、ソフト事業ですが当面はそういった対応をしていきます。ハード面については今後予算対応しながら早めに応急対応していくよう考えています。

(記者) 現在、応急対応している場所があるということか。

(企画部長) 現在は調査をして洗い出しを行っている段階です。

(記者) 排水ポンプはどのような形式か。

(副市長) 排水ポンプと電源の2種類で1セットとしたものの3セットを、所有している業者と調整し、これまでのものにプラスして3基用意ができる状況を整えたということです。大型のポンプではなく、すり鉢状のような場所に水が溜ったときに、そこに電源とポンプを運んで行き、水を汲み上げて近くの河川などに放水できる持ち運びが可能なセットを3基、いざという時にお借りできる準備が整ったとご理解ください。

○下水道について

(記者) 大雨で困られた方が多く、議会でも取り上げられ、今後、下水道管更新などの対策が必要になってくると思うが、流域各市町村とどのように連携して進めていくか。また、諏訪市としてどのような対策を考えているか。

(市長) 下水共用から40年ほどが経過しておりまして、今回も雨水が下水管に流入してきたことにより処理が厳しい状況になったということを県とも確認しております。その原因をどのように調査するのかというところを含めてスタートしていきたいところです。当然、古くなった配管の布設変え作業は順次行っています。それに加えて目に見えない部分の破損の有無といった調査をかけながら対応していくということになるかと思えます。

(記者) いつ頃から行うのか。

(市長) 事業自体は調査に少し時間がかかるのではないかと思います。課題の検討については、すぐにでも取り組みをスタートしていくという考えです。

○工業メッセの中止について

(記者) 工業メッセの中止により観光業者や宿泊業者への影響があると思うがどのように考えているか。

(市長) 実行委員会のご判断を尊重したいと思います。昨年のネット開催で何件か成果があったと承知しておりますが、リアルな開催は、大変大きな実績につながる場所や機会であると承知しておりますので、開催できればという思いでおられた出展者のみなさんは残念な思いをされているのではないかと思います。それに関連いたしまして、大きなイベントの下支えをする観光事業者や各種関連事業のみなさん等々も同じく残念な気持ちをお持ちだと思いますが、コロナ感染症に対して責任ある対応をしなければならぬ立場も理解できます。今年も残念ながらネット開催ではありますが、新しいDX（デジタルトランスフォーメーション）へのシフトという意味で捉えれば、その成果を上げていく良いステップになるのではないかと期待いたしまして、それぞれにご努力いただき、目標とする成果に近づけるよう頑張っていたきたいと思います。

(記者) 追加での支援は考えているか。

(市長) 今議会の初日に追加の補正予算を上程いたしまして、その中に経済対策がいくつか入っております。「おいでなして！すわ泊お宿割」については、10月1日から実行する予定であります。もちろんコロナの警戒レベル5が今月29日までということですので、そうした状況も見ながらということですが、経済復活に向けての追い風になってくれればと思います。長野県内居住者が対象宿泊施設に宿泊した場合に3,000円割引いた金額で宿泊できます。県民割等との併用も可能です。また、「がんばろう！すわ テイクアウト&みせのみクーポン事業」を9月23日から11月30日ということで企画しております。税込1,000円あたり400円の次回使えるクーポン券です。「信州の安心なお店」の認証を受けた対象店舗やタクシーにも使えるものです。より多くの方に利用していただいて復活の兆しになってもらえたらありがたいと思います。

○自民党総裁選について

(記者) 事実上、国のリーダーを決める選挙に4名が立候補され2名が女性であるが、市長はどのように受け止めているか。

(市長) 政権を支える中心的な党のトップを決める選挙の立候補者が男性女性半分というのは初めてのことだと思います。これは世の中が変わってきている1つの証であると思い、期待しております。

(記者) 衆院選も控えているがどのような議論を期待するか。

(市長) 男性だから、女性だからというものを越えてしっかりと議論をしたうえで選挙を勝ち抜かれた方がその思いを実現していくということがあるべき姿だと思っています。その中で女性の候補には女性の視点があるだろうと思っています。